

自動物流道路実験、複数の搬送機活用

■千葉県／成田空港会社、新たなシステム構築へ

千葉県と成田国際空港会社（NAA）は、2026年度も自動物流道路の実証実験を行う。空港周辺で複数台の搬送機器による自動走行の実証実験を計画している。成田空港「第2の開港」にあわせて、空港内や隣接する公道、周辺物流地域を結ぶ新たな物流システムとして、自動物流道路の構築を目指す。25年度に空港周辺で行った実証実験の成果を踏まえ、実際の運用を想定した技術検証を行う。

国土交通省の「2026年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」に採択された。25年度は成田空港周辺をフィールドとした実証実験が採択され、自動運転技術を活用した搬送機器の走行性能などの検証を行った。今回の実証実験は成田空港内の施設で行う。実験実施者は千葉県、NAA、大林組、Cuebus、NTTデータ。

成田空港は滑走路延伸・新設で年間発着容量（現在34万回）が50万回に拡大する。貨物地区を含む施設再編も行われる。新しい貨物地区は新たに区画となる空港東側地区に整備される計画だ。供用開始は30年代初頭とされており、需要に応じて拡張する。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と近接する立地でもあり、新貨物地区と周辺物流施設、圏央道との円滑な接続が新貨物地区にとって重

要な役割を担う。NAAは空港外との円滑な接続において、自動物流道路の導入も念頭に各種検討を進めている。

千葉県やNAAは、25年6月に策定した「SORATO NRT エアポートシティ構想」で、物流分野の効率化・高度化に向けて、空港内貨物施設を起点とする自動物流道路の整備を掲げた。ドライバー不足や労働時間規制に対応して、物流の最適化や物流モードのシームレスな連結、カーボンニュートラルを目指すことが念頭にある。物流の全体最適化と省人化、環境負荷の低減を同時に実現する。

併せて、日本の貿易拡大に向けて、国際空港の機能を生かした物流・産業拠点形成と迅速な物流チェーンの構築を目指す。輸送速度・品質管理が重要な貨物（医療用原料、生鮮農

産物、精密部品など）への対応を強化するとともに、必要に応じた規制緩和・制度導入を検討する。

自動物流道路とは、道路空間に物流専用のスペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段で貨物を運ぶ新たな物流システム。物流の輸送力不足（物流危機）やカーボンニュートラルの実現といった社会の変化に対応することを目的としている。

国土省道路局は自動物流道路の社会実装に向けて、国土技術政策総合研究所の試験走路や成田空港内の施設を活用した実証実験を引き続き実施する。今回、千葉県を代表者とする実験実施者は成田空港内の施設を利用。自動物流道路の実現に必要な複数台の搬送機器による自動走行に関する実証実験を行う。